

2020年（令和二年）

7月17日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

■ 概況

7/2~7/8のNYMEX・WTI先物市場は、40.62~40.90ドルの範囲で推移した。

7月9日は、新型コロナの感染再拡大への懸念、米国株値の低下を背景に反落し、40ドルを割った。8月限終値は前日比1.28ドル安の39.62ドル。

週末10日は、この日発表の国際エネルギー機関(IEA)月報が2020年の世界見通しを上方修正、年後半の需要回復への期待、また、米国株値の回復に伴う投資家心理の改善から、反発、40ドル台を回復した。8月限の終値は前日比0.93ドル高の40.55ドル。

週明け13日は、15日からのOPECプラスの合同監視委員会の開催を前に、週末、OPECプラスは協調減産幅を970万b/dから770万b/dに縮減するとの観測報道があり、これを時期尚早とする見方から、反落した。8月限終値は前週末比0.45ドル安の40.10ドル。

14日は、OPECが6月の加盟国産油量をサウジ・イラク等の減産で前月比7.8%減の2227万b/dと発表、また、外電もOPECプラスの6月減産順守率が107%に達したと報道するなど、需給改善への期待感から反発した。ただ、米国における新型コロナの感染再拡大の懸念、利益確定売りから上値は重かった。8月限終値は前日比0.19ドル高の40.29ドル。

15日は、この日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の週報で原油在庫が大きく取り崩されたことから、続伸した。ただ、この日のOPECプラスの合同閣僚監視委員会(JMMC)で、予定通り、8月より協調減産の970万b/dから770万b/dへの縮減が合意されたことで、上値は抑えられた。8月限の終値は前日比0.91ドル高の41.20ドル。

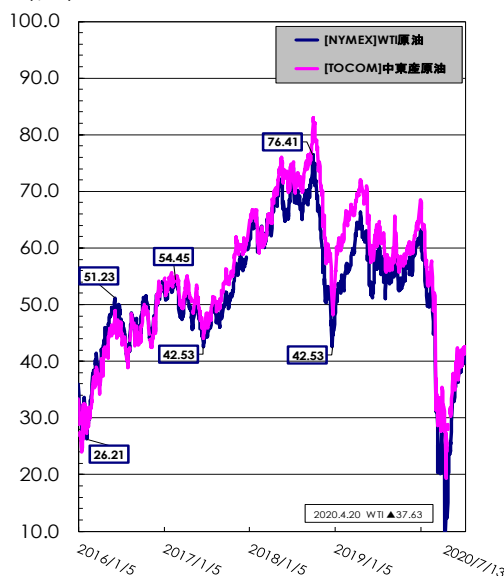
アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場(9月渡し)は7月2日~8日の間42.20~43.10ドルの範囲で推移した。7月9日43.40ドル、10日42.10ドル、13日43.30ドル、14日42.60ドル、15日43.60ドルと推移した。

為替は7月2日~8日の間107.30~107.69円の範囲で推移した。7月9日107.31円、10日107.13円、13日106.84円、14日107.27円、15日107.30円で推移した。

そのような中で、7月13日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.5円の値上がり、軽油も同0.4円の値上がり、灯油は2円の値上がり(18㍲ベース)だった。ガソリンは9週連続の値上がり、軽油は9週連続の値上がり、灯油も8週連続の値上がりだった。この週(7月第2週)の原油コストはわずかに値上がりしたが、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに全社据え置きとなった。

原油		今週		前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	7/5 ~ 7/11	2,304	▼ -96	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	58.8	▼ -2.5	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	7/11	13,112	▼ -404	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	7/13	42.56	▲ 0.21	▼ -21.3
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	7/13	40.10	▼ -0.53	▼ -19.5
	原油CIF単価 (\$/bbl)	6月中旬	23.77	▲ 0.28	▼ -49.31
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	16,168	▲ 277	▼ -33,971
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	108.17	▼ -0.58	▲ 0.90
	外国為替TTSレート (¥/\$)	7/13	107.84	▲ 0.81	▲ 1.13

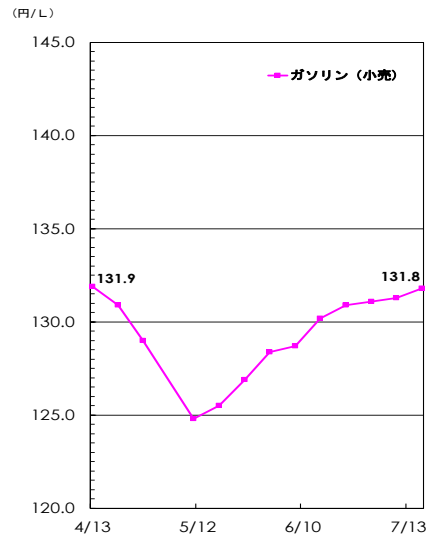
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	7/5 ~ 7/11	832 ▲ 54	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	783 ▼ -67	▼ -
	輸出	"	0 ➡ 0	▼ -
	在庫	7/11	1,662 ▲ 49	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	7/7 ~ 7/13	41.8 ▲ 1.0	▼ -17.2
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	7/7 ~ 7/13	40.2 ▲ 0.7	▼ -17.7
	(TOCOM/中部)	7/13	40.5 ▲ 0.5	▼ -18.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/13	131.8 ▲ 0.5	▼ -13.8

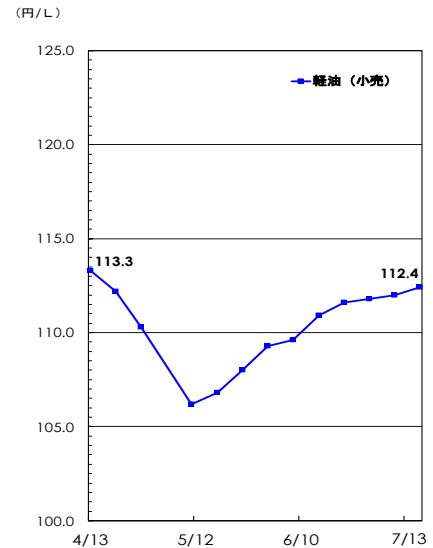
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

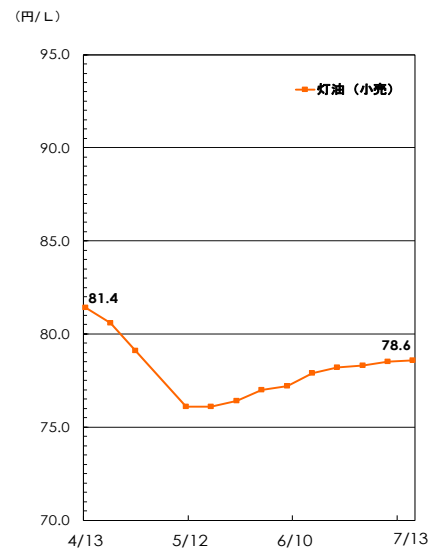
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	7/5 ~ 7/11	596 ▼ -55	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	559 ▲ 26	▼ -
	輸出	"	6 ▼ -29	▼ -
	在庫	7/11	1,587 ▲ 31	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	7/7 ~ 7/13	43.6 ▲ 0.6	▼ -18.0
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	7/7 ~ 7/13	46.9 ▲ 0.7	▼ -15.5
	(TOCOM/中部)	7/13	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/13	112.4 ▲ 0.4	▼ -14.2

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	7/5 ~ 7/11	162 ▲ 90	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	98 ▲ 40	▲ -
	輸出	"	18 ▼ -52	▼ -
	在庫	7/11	1,787 ▲ 46	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	7/7 ~ 7/13	43.3 ▲ 1.0	▼ -17.7
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	7/7 ~ 7/13	40.8 ▲ 0.5	▼ -18.0
	(TOCOM/中部)	7/13	43.0 ▲ 1.5	▼ -17.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/13	78.6 ▲ 0.1	▼ -12.5



■ 関連情報

1 海外/原油

7月15日のNYMEX市場WTI先物原油は、この日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の週報で、前週末の原油在庫は前週末比750万バレル減(市場予想:210万バレル減)と大きく取り崩されたこと、また、米国で新型コロナに対するワクチン開発の進展が報じられたことで需給改善への期待感が高まり、続伸した。ただ、電話開催されたOPECプラスの合同閣僚監視委員会(JMMC)で、予定通り、8月より協調減産の970万b/dから770万b/dへの縮減が合意されたことで、上値は抑えられた。8月限の終値は前日比0.91ドル高の41.20ドル、9月限の終値は同0.85ドル高の41.40ドル。

EIAによると、7月13日時点のガソリンの小売価格は、前週比1.8セント値上がりの1ガロン2.195ドル(62.5円/ℓ)、ディーゼルは同0.1セント値上がりの2.438ドル(69.4円/ℓ)となった。ガソリンは11週連続の値上がり、ディーゼルは6連続の値上がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2020年7月5日～7月11日に休止したトッパー能力は70.1万バレル/日で、前週に対して5.5万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は230.4万klと、前週に比べ9.6万kl減少。前年に対しては100.6万klの減少。トッパー稼働率は58.8%と前週に対して2.5ポイントの減少、前年に対しては25.7ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、灯油、C重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/6.9%増、ジェット/55.0%減、灯油/125.1%増、軽油/8.5%減、A重油/16.5%減、C重油/11.6%増。今週のC重油の輸入は1.1万kl(前週比1.1万kl増)。軽油の輸出は0.6万kl(前週比2.9万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週比で灯油、軽油、A重油が増加となり、その他の油種で減少となった。前年比では灯油、A重油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は78.3万kl(対前週7.9%減)と3週振りで減少となり、47週連続で100万klを下回った。ジェット2.4万kl(対前週75.8%減)、灯油9.8万kl(対前週68.5%増)、軽油55.9万kl

(対前週5.0%増)、A重油17.9万kl(対前週17.3%増)、C重油13.4万kl(対前週15.8%減)。

(単位: 千kl)

	今週 (7/5 ~ 7/11)	前週 (6/28 ~ 7/4)	前週比
ガソリン	783	850	▼ -67 (-8%)
ジェット燃料	24	100	▼ -76 (-76%)
灯油	98	58	▲ 40 (69%)
軽油	559	533	▲ 26 (5%)
A重油	179	152	▲ 27 (18%)
C重油	134	159	▼ -25 (-16%)
合 計	1,777	1,852	▼ -75 (-4%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

7月11日時点の在庫は、A重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは166.2万kl、前週差4.9万kl増。前年に対しては13.3万kl多い。

灯油は178.7万kl、前週差4.6万kl増。前年に対しては20.2万kl多い。

軽油は158.7万kl、前週差3.1万kl増。前年に対しては24.3万kl多い。

A重油は75.7万kl、前週差3.8万kl減。前年に対しては4.7万kl多い。

C重油は192.3万kl、前週差6.5万kl増。前年に対しては6.3万kl少ない。

(単位: 千kl)

	今週 (7/11)	前週 (7/4)	前週比
ガソリン	1,662	1,613	▲ 49 (3%)
ジェット燃料	794	723	▲ 71 (10%)
灯油	1,787	1,741	▲ 46 (3%)
軽油	1,587	1,556	▲ 31 (2%)
A重油	757	795	▼ -38 (-5%)
C重油	1,923	1,858	▲ 65 (3%)
合 計	8,510	8,286	▲ 224 (2.7%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

7月7日～13日の原油価格は、前週比で値上がりしたが、為替の円高がこれをわずかに相殺し、原油コストはわずかに値上がりしたものと見られる。

これを受けて、次週の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社、据え置きとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

7月7日～13日の製品スポット市況は、6月30日～7月6日平均と比べ、全油種・全取引で、値上がりした。

直近(7/7～7/13)の陸上スポット価格平均値(千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格)は、前週比で、ガソリンは1.0円の値上がり、灯油は1.0円の値上がり、軽油は0.6円の値上がりだった。直近(7/7～7/13)において、ガソリンは95円台で値上がり後ほぼ横ばい、灯油は42～43円台で値上がり後横ばい、軽油は43円台で値上がり後ほぼ横ばいで推移した。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、同期間、前週比で、ガソリンは0.7円の値上がり、灯油は0.1円の値上がり、軽油は1.1円の値上がりだった。海上スポット価格は、同期間に、ガソリンは96円台で値上がり後横ばい、灯油は39円台で一時的に値上がり後値下がり、軽油は44～45円台で大きく値上がり後横ばいで推移した。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは0.7円の値上がり、灯油は0.5円の値上がり、軽油は0.7円の値上がりだった。先物価格は、同期間に、ガソリンは93～94円台で出入り後ほぼ横ばい、灯油40～41円台で値上がり後値下がり、軽油46～47円台で出入り後値上がりで推移した。

(RIM) (単位: 円/ℓ)

陸上ローリー 4地区平均	今週 (7/7～7/13)	前週 (6/30～7/6)	前週比
レギュラー	41.8	40.8	▲ 1.0
灯油	43.3	42.3	▲ 1.0
軽油	43.6	43.0	▲ 0.6

(TOCOM) (単位: 円/ℓ)

期近物/終値 [平均]	今週 (7/7～7/13)	前週 (6/30～7/6)	前週比
レギュラー	40.2	39.5	▲ 0.7
灯油	40.8	40.3	▲ 0.5
軽油	46.9	46.2	▲ 0.7

※上記価格は税抜き価格

参考値 (7/7～7/13実績値) (単位: 円/ℓ)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 1.0	▲ 0.7	▲ 0.8
灯油	▲ 1.0	▲ 0.5	▲ 0.8
軽油	▲ 0.6	▲ 0.7	▲ 0.7
A重油	▲ 0.9		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

7月13日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.5円高の131.8円、軽油も同0.4円高の112.4円、灯油は18ℓベースで同2円高の1,415円(1ℓベースでは同0.1円高の78.6円)。ガソリンは9週連続の値上がり、軽油は9週連続の値上がり、灯油も8週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは34都道府県、横ばいは2県、値下がりが11県となった。全国最安値は徳島県の122.6円(同2.1円高)、その次に安いのが岡山県の125.0円(同0.6円高)、最高値は長野県の141.6円(同1.2円高)。最も値上がりしたのは、同2.5円高の香川県(127.2

円)、横ばいは高知県・鳥取県の2県、最も値下がりののは、同0.7円安の愛知県(129.1円)だった。

先週の原油コストは値上がりし、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油とも、全社1.0円の値上げとなった。今週は、原油価格は値上がりしたが、為替レートも円高がこれをわずかに相殺し、原油コストはわずかに値上がりした。次週適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社、据え置きとなった。次回調査時(7月20日)のガソリン価格はこれまでの卸価格の転嫁が進むことから、小売価格は小幅な値上がりが見込まれる。

(単位: 円/ℓ)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (7/13)	前週 (7/6)	前週比	直近高値
レギュラー	131.8	131.3	▲ 0.5	08/8/4 185.1
灯油	78.6	78.5	▲ 0.1	08/8/11 132.1
軽油	112.4	112.0	▲ 0.4	08/8/4 167.4

小売価格

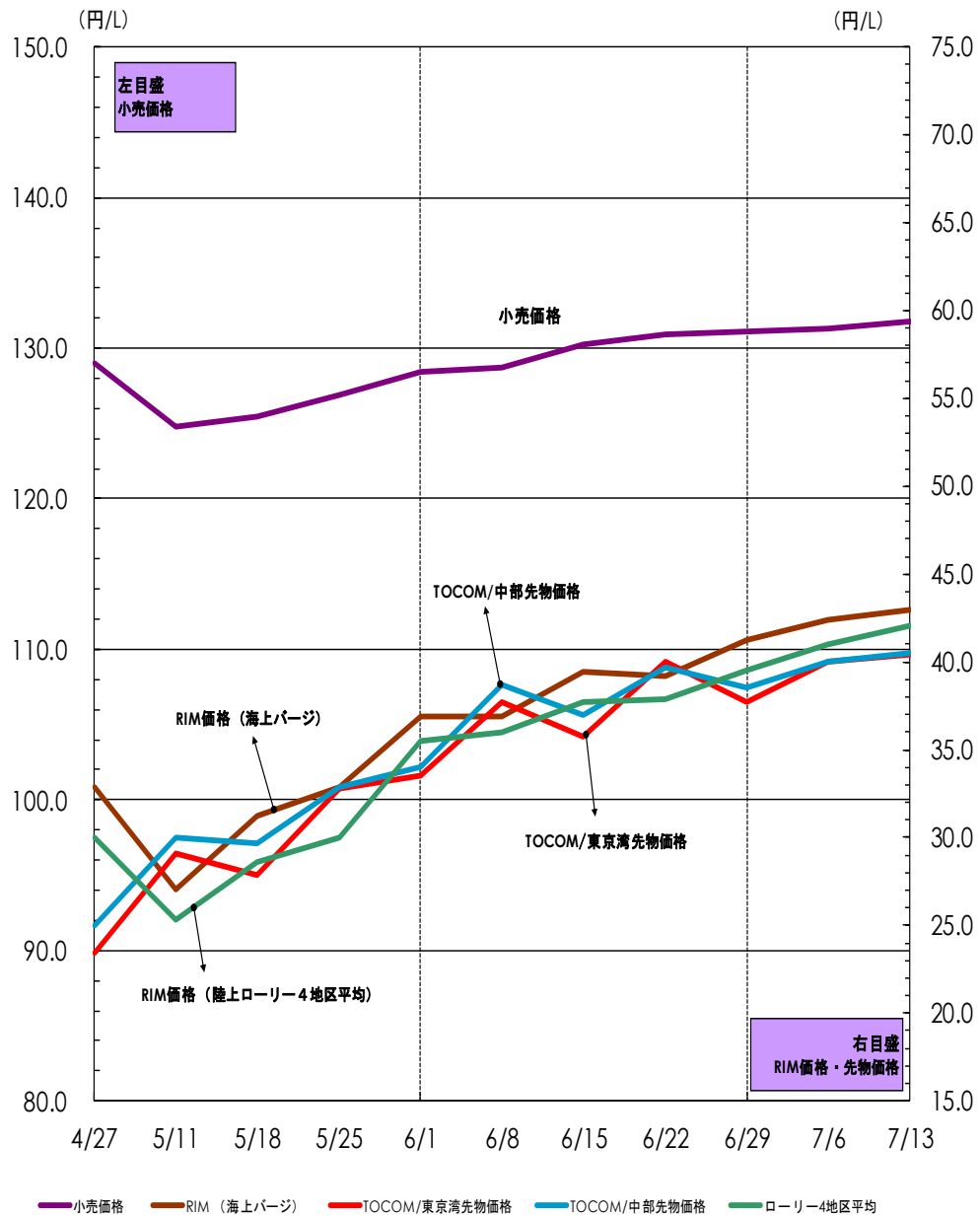
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2020/4/27 ~ 2020/7/13)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2020第5号)の公表は、7/27(月)14:00です。

「セルフSS出店状況」(令和元年9月末現在)は、12月25日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連通報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。